

第 1 回こどもはぐくみ推進本部会議議録（要旨）

開催日時	令和 5 年 2 月 17 日（金） 16:30～18:05
場 所	真庭市役所 本庁舎 2 階大会議室
出席者	本部長（太田市長）、副本部長（伊藤副市長）、（三ツ教育長）、 危機管理監（池田）、総合政策部長（有元）、総務部長（金谷）、 生活環境部長（今石）、健康福祉部長（江口）、産業観光部長（木村）、 産業政策統括監（石井）、建設部長（頭山）、会計管理者（橋本）、 教育次長（安藤）、消防長（大美）、湯原温泉病院事務部長（中谷）、 議会事務局（三浦）、蒜山振興局（行安）、北房振興局長（大塚）、 落合振興局長（河本）、勝山振興局長（河島）、美甘振興局長（今石）、 湯原振興局長（畦崎）、市役所職員 7 名
事務局等	子育て支援課（行田、硯）
傍聴者	0 名
議事内容	(1) 特に市民に知って欲しい重点施策について（資料） (2) 市民への情報提供について (3) 車座トーク 子育て中の女性職員、育休取得男性職員、伴走して支える保健師
冒頭の事項	健康福祉部長：第 1 回こどもはぐくみ推進本部会議を開催します。本会議はこども・子育て施策をテーマにまとめました「こどもはぐくみ応援プロジェクト」を推進していくにあたって、全庁を挙げて子育て施策を横断的に進めるための会議です。
	本部長：これまで副市長を中心に子育て施策の充実と言うことで、いろいろな知恵を出し合いながら検討をやってきて予算化しましたが、これは完成形ではありません。この予算化できたものを職員が共通認識して、職員がまず自分の課で事業を進めて市民にどうお伝えするか。子育て中の方や市民の方々からも提案をもらって、希望のある真庭をつくっていくことを考えなければならない。本日は自由に発言してもらうために円卓形式でしている、自由に意見を出してもらいたい。
(1) はぐくみ応援プロジェクト重点施策について	健康福祉部長：「まにわパパママクラス」の開設 妊娠・出産・育児ができるよう楽しく学んでいく場をつくりたい。パパママ友の交流繋がりをつくれるような教室を開催。 「医療的ケア児訪問看護レスパイト事業」在宅で医療ケアが必要なお子さんに対して、訪問看護利用の自己負担のところを助成する。 「園児のおむつスッキリ事業」園で使用するおむつを園の方で処理することで保護者・保育士の負担を軽減できる。 「はぐくみサポーター派遣事業」子育て支援サポーターの名称を変更。サポーターを養成し自宅に派遣する事業。回数を拡充、非課税世帯については利用料は無料にした。 総合政策部長：「森の日普及事業」令和 3 年から津黒いきものふれあいの里が行っている事業。地域と大人と子どもが繋ぐ場としてこれからも広げていきたい。

「山村留学モデル事業」中和地区をモデル地区として、短期留学を7泊8日まで利用できる。

生活環境部長：「こども医療費無償化」令和5年の6月診療分から医療費について現在15歳中学生世代までが無料となっているが、18歳の高校生世代まで拡充。

建設部長：「安心して遊べる場の整備促進」市民と市役所の協働による笑顔があふれるポケットパークの整備。

「市営住宅入居時の多子世帯優遇制度」18歳未満の子どもさんを3人以上扶養する世帯について、優先的に入居していただける制度。

産業観光部長：「子育て世帯や市内企業の実態調査分析事業」可処分所得を上げていくための調査研究に取り組む。

教育委員会次長：「学習交流センター整備事業」寄宿舎機能を持った学習交流センター、地域の方も交流できるという施設を建設。

「こどもの居場所づくり事業」子どもの居場所づくりとしてモデル的に遊び場プレーパークを開催。市民共同で遊び場をつくっていく。

子育て世代職員：

- 遊びの場で、地域の人と遊んで笑っていたら嬉しい。
- 医療的ケア児のレスパイト事業の方も既存の枠と真庭市の現状で必要に応じたところに支援をしようとしているところがいい。
- お父さんとお母さんが子育てを一緒にやろうという空気をつくっていくことは大切。
- 子育てで相談したい時、課題に直面した時に相談できる場所はどこなのか、情報が欲しい人にきちんと情報を提供できる環境を整えていく、情報が伝わるツールが大切。
- 男性の育児休業の取得、子育て世代に理解のある企業や育児休業の取得者をいっぱい増やしていければ。

産業観光部長：今回の事業をとおして実態のデータを集めて、分析結果を市民の皆さんや企業にも伝えていきたい。

保健師：

- 一番の協力者ってまずパートナーですけど、そこや家族の支援が弱かったり、夫に理解してもらえないことがある。つながりをちゃんと持ってもらうたり悩みを抱え込まないで誰かに言えることが重要であるという確認ができた。私事として自分が子どもに何ができるか考えれると思うが、皆さんはどう思われるか。

総合政策部長：こどもは0歳児からそれぞれ自我と主体。こども目線、こどもの要求ニーズを突き詰めていけるか難しい。生まれたら自覚を持った一人の人と思えばいいが、実際は親の支援になってしまう。

	<p>建設部長：昔より人の繋がりが希薄になってきていて、崩壊している。もう1回再生しようとしている。横の繋がりがお互いに相談しやすい関係づくりができれば。</p>
<p>(2) 市民への情報提供について</p>	<p>子育て世代職員：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市役所の中でももっと流せる情報もあると思っている。保護者が安心したり、地域で盛り上がることで子育てしたいなっていう地域になっていけば。 ○保護者ネットワークの口コミでいろいろな情報を聞くことが一番多かった。子どものためになるとか子育てに役に立つ情報だったら気軽に共有し広まると思う。一番その子どもや親に近い現場を具体的にイメージして、そこにアプローチしていく。 ○保育園で情報が見れたり相談しやすいものがあつたら、困り事を抱えている人も相談できる。 ○口コミなどの繋がりがすらない人に対しては、システムで勝手に情報が届く、簡単な検索で情報がわかるシステムが欲しい。 <p>健康福祉部長：情報がどういった起点で繋がっていくのか。そういった所にちゃんと起点をおけばずっと繋がっていく。それを捉えずにやっていると届かない。</p> <p>副本部長（教育長）：子育てって楽しい時間だな、肩の荷を下ろして大丈夫なんだ、子どもは自由に遊んでもいいんだ、そんなところで人が繋がっていけば、顔が見える人がどれだけ繋がっていくかを一番大事にしたい。</p> <p>副本部長（副市長）：真庭市は決して子育て支援ができていないということはない。情報が市民の皆さんに届いてなかったということがある。横串を刺して市役所全体として、頑張っていこうという体制や意識が少しかけていた。市民の皆さん方にどう伝えていくかというのが本当にこれから問われることだと思っている。是非市役所の中でも議論して、本当にこれからこのプロジェクトをより素晴らしいものにしていきたい。</p> <p>本部長（太田市長）：子育てしやすい環境・まちをどういう風にしていったらいいんだろうか、そういうことを考える場をつくってもらいたい。まち全体が子育てを考えようということになっていけば違ってくる。自由にみんなの知恵を出し合ってやっていきたい。</p>
<p>確認事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て世代の意見を取り込みながら、全庁を挙げて子育て施策を横断的に進める取組みを強化。 ○こどもを真ん中に、子ども目線で各課が自分事として子育て施策を進める。 ○市が取り組んでいる事業が上手く市民の人に伝わっていないという課題に対応するための、情報発信の手法・ツールを検討。 ○市民の人と一緒に知恵を出し合って、子育てしやすいまちを考えていけるよう場を検討。